

「立ち上がる農山漁村」選定案概要書

取組分野：【交流】【食】

1. 都道府県、市町村 山口県^{ながとし}長門市
2. 事業者名 通地区発展促進協議会
3. 取組みの名称 「古式捕鯨の里 通（かよい）」づくり
4. 取組概要等

概要

通地区発展促進協議会では、江戸時代から明治時代にかけて行われてきた捕鯨文化を活用した「まちづくり」に取り組んでいる。

平成4年より実施開催している「通くじら祭り」では、18年より「古式捕鯨の再現」の演技者を地区外から募集し、東は横浜から西は宮崎まで県内外から20名の参加があり、19年には数名のリピーターもあった。また、ボランティアスタッフとして下関市立大学生約30名が2年連続で参加、日韓交流学生も参加。地区外からの参加型を模索でき、新しい展開を生んだことの意義は大きい。19年度には、参加学生30数名が地元の15軒でホームステイを行った。

17年度から専門部会の充実を図り、「ホームページの立ち上げ」、「くじら文化通り」の設定、「コースマップ」の作成について、各担当班を編成の上、企画・立案を行った。その中で「ボランティアガイド」の養成も浮上した。

18年度に入り、ホームページは「古式捕鯨の里 通（かよい）」を4月に立ち上げ、年度内にアクセス件数15,000件を突破した。立ち上げにおいては、地区のパソコン精通者の協力を得た。更新についても、ボランティアによりお願いしている。

コースマップは「くじら文化通りマップ」として、4月末に本会および地区の水産関係3社の協賛を得て6,000部印刷。19年度において、コース内の下水マンホール蓋の鯨イラスト塗装を、地元中学生と一緒に実施した。

ボランティアガイドについては、公民館だより等により公募し、6月より養成講座を月1度開催している。8月には「くじらボランティアガイドの会」を設立。10月よりガイド活動を開始。以後、各種のガイド要請に応えている。現在のガイド数は4名。

地元産の魚介類及び水産加工品などの水産資源を中心にした販売会を中心に、5月3日に「通なんでも市」を開催。9月には2回目を、19年5月に3回目を開催し、これまで魚のつかみどりや、魚の食べ方コンテスト、遊漁船による体験航海など、漁村の特徴を活かした企画を取り入れている。

各企画において、地区民の有している能力や地区の特性を図り、また、それぞれの企画を連動させ、「古式捕鯨の里 通（かよい）」をPRし、通地区ひいては長門市のまちづくりへの貢献を考えて展開している。

活動の規模

項目	H14	H15	H16	H17	H18
来客数				700	2,800
解説	単位：人	「通くじらまつり」・「通なんでも市」鑑賞者等			
イベント回数				1	3
解説	単位：回				
イベント参加者				300	500
解説	単位：人				

活用している地域資源

- ・青海島鯨墓（昭和10年：「国の史跡」指定、平成18年2月：水産庁「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選」に選定）

- ・くじら資料館（平成5年開館。昭和50年に国の重要有形民俗文化財に指定された「長門の捕鯨用具」140点を始めとする捕鯨用具を展示）
- ・早川家住宅（元鯨組頭の家）：昭和49年に国の重要文化財建造物に指定
- ・長門市向岸寺の鯨位牌および鯨鯨過去帖：昭和50年に国の有形民俗文化財に指定
- ・通鯨唄：昭和46年に長門市の無形民俗文化財に指定
鯨唄保存会では、小・中学生に鯨唄の指導を行い、子供たちは文化の継承と合わせて人としての心情を受け継いでいる。

地域活性化のポイント

「古式捕鯨の里通（かよい）」という、まちづくりにおいて、ホームページの立ち上げでは、地区住民の有しているパソコン技術の能力活用を図ることができ、このことによる情報発信が可能になり、各種取り組みの宣伝に大いなる威力を発揮した。ホームページのアクセスを通して、「通くじら祭り」で地区外参加者の獲得などに貢献できた。

取り組みを進める中から、さらに新しい企画も浮上してきた。その一つが「ボランティアガイド会」の発足であり、二つ目には「通なんでも市」による即売会が開催できたことである。このことにおいて、地区の漁業関係者等が多数参加するなど、新たな人材の発掘が生まれた。水産資源を活用した新しい取り組みも生まれ、水産のまち通（かよい）をアピールすることもできた。

さらには、各企画が連動した活動を展開することにより、地区民に古式捕鯨の里通（かよい）のまちづくりへの理解が進んできた。

事業の今後の展開方向

古式捕鯨の里通（かよい）のまちづくりをさらに展開する。また、水産資源を活用した取り組みを進める。今の取り組みを充実させ、新たな取り組みも研究する。

1．現在の取り組みの充実

- (1)ホームページの活用を充実させて、情報発信を拡大
- (2)ボランティアガイドの増員
- (3)「通なんでも市」の定着を図る
- (4)くじら祭りでの「古式捕鯨の再現」演技者の参加募集の拡大

2．新たな取組

- (1)地区に捕鯨の里色合いを出す
通地区入口に「古式捕鯨の里通（かよい）」の看板設置
鯨型表札の作成
- (2)くじら資料館前の「鯨唄歌碑」の横に鯨唄の音声ボックスを設置
- (3)鯨模型船の記念撮影の日付板設置
- (4)地元で水揚げされた魚介類及び水産加工品の活用
魚介類を使った特産品や食品開発
- (5)19年11月に東京都立高校の修学旅行におけるホームステイ受入
長門市全体の受入（240名）のうち通地区で約150名を60世帯で受入予定
- (6)各企画にボランティアスタッフを募る

3．他地区との鯨文化交流

- (1)古式捕鯨伝承地（生月・呼子など）との交流会を企画
意見交換会 鯨唄の競演による文化交流
- (2)長門市と下関市との鯨文化交流事業への参加
捕鯨史探訪ツアー
鯨鍋コンテスト

